ぐるりしょうばら カメラレポート

各地で行われたイベント＆話題を紹介するコーナーです。

プロと共演し技術を体験

エネルギア「音楽づくりコンサート」

広島交響楽団（65人）は、11か国の音楽を演奏

スペイン音楽の演奏で、子どもたちがフラメンコを踊る

エネルギア「子どもたちと広響による音楽づくりコンサート」が７月２日、市民会館で行われました。

これは、子どもたちが実際に楽曲を体感し、音楽を創造するワークショップ連動型のコンサート。事前に楽団員が学校を訪問して、「踊り」や「ウェーブ」などの振り付けを指導し、子どもたちがオーケストラ曲をより深く楽しめるように準備を進めてきました。

コンサートでは、会場全体を架空の乗り物「ペンタトニック号」に見立て、世界各地を巡りながら各国の楽曲を鑑賞。参加した市内の小学校５・６年生など671人は、途中で曲に合わせて踊ったり、合唱したりして、コンサートを盛り上げました。

プロの技術を体験・共演し、子どもたちの豊かな情操を育もうと中国電力㈱がスポンサーで開催されました。

工事の安全と早期開通を願う

中国横断道尾道松江線安全祈願祭

尾道松江線の安全祈願祭が、６月21日に高野工区で、７月６日に口和工区で、それぞれ行われ、行政や工事関係者、地元地権者代表などが参列し、工事の安全と早期開通を祈願しました。

中国横断自動車道尾道松江線は、尾道市から松江市にかけて137kmをつなぐ道路です。この整備により、県内外のアクセスがスムーズになり、観光をはじめとする「人の交流」や「地域の連携」が促進されるなど、さまざまな効果が期待されています。

参列した関係者（高野）

安全を願って玉ぐしをささげる（口和）

有事に備え大規模訓練

三日市密集地火災想定訓練

密集地火災想定訓練が６月24日、三日市町で行われ、地域住民や消防団など約600人が参加しました。

参加者は実際の火災現場さながらに、真剣な表情でバケツリレーを行い、消防団員は放水訓練を行いました。

また、庄原市赤十字奉仕団（寺岡隆行代表）による炊き出し訓練も行われ、参加した約40人の団員は手際よく五目飯などを作っていました。

火災をはじめとした各種災害時には、温かい食事が気持ちを落ち着かせ、被害に遭われた方はもとより、救助活動を行う方の力の源となります。参加者は「いつ災害が起きても慌てず対応できるよう今後も活動をしていきたい」と話していました。

住民によるバケツリレー

赤十字奉仕団が大鍋で炊き出し

深緑を歩いて魅力再発見

帝釈峡ウォークラリー

７月16日、帝釈峡まほろばの里を発着点として、『帝釈峡ウォークラリー』が開催され、『まほろばコンサート』と合わせて約150人が参加しました。

帝釈峡まほろばの里から天然記念物『雄橋』までの約４kmのコースには、８か所のチェックポイントが設けられ、参加者は帝釈峡の自然に関する問題を解きながら、設定された時間内でコースを歩きました。

参加者の中には、「東城に住んでいても知らない問題もあった」「子どもに答えを教えてもらった」などと話し、帝釈峡の魅力を再発見していました。

また、野外ステージで『まほろばコンサート』が行われ、東城中学校吹奏楽部が「明日があるさ」など４曲を披露。「ＲＩＣＯ＆河野せいじ」のギターとキーボードの音色が緑の会場を包みました。

チェックポイントで問題を解く参加者

浴衣で夏の風情を楽しむ

紅梅通り七夕まつり

アイリッシュ・ミュージックがライブ

「浴衣で楽しむ紅梅通り七夕まつり」が７月５日～７日の３日間、庄原市街地で行われました。

紅梅通りには、県立広島大学の学生らで構成する「さくらプランニング」が作った竹灯篭や市内の児童が作った笹飾りが並べられ、夏祭りの風情を演出。

７日は、旧中本町・下本町で土曜夜市も開催され、県立広島大学 のアイリッシュ・ミュージックサークルがまちかど演奏をしたほか、漬物バーやコロッケの販売などの露天が並びました。また、楽笑座でもアルゼンチンタンゴのライブなど七夕イベントが行われ、浴衣姿の家族連れなどで賑わいました。

国際的な視野を広げる
粟田小が「子ども国際教室」

6月28日東城の粟田小学校で、世界のさまざまな文化を知り、国際的な視野を広げようと「子ども国際教室」が開催されました。

全校児童22人は、低学年・高学年に分かれて、ひろしま国際センターにボランティア登録している、フィリピン・ネパール・バングラデシュ出身の3人の方々から、スライドやプロジェクター、模型を用いて、言葉や文化、日本とのかかわりについて聞きました。

フィリピンの乗り物を学ぶ子どもたち

フィリピン出身の山出べべさんは、フィリピンの乗り物を模型で紹介。児童は「何という乗り物ですか」「どうやって乗るんですか」と質問していました。また、ネパール出身のブラビン・シュレスタさんは、エベレスト山の自然や山頂付近のごみ問題を紹介。「10代の若者が、エベレスト山の登頂に成功している。君たちもぜひ挑戦してほしい」と話していました。

最後に参加者全員で、英語のじゃんけんゲームを楽しみました。

めざせ！ホームランバット
「なかつくに公園」で環境整備

防草シートを張る参加者

総領町稲草の「なかつくに公園」で6月16日、アオダモの木の根元に防草シートを張る作業が行われました。

アオダモは野球のバットの原材料で、昨年秋に、広島東洋カープの選手らと市内の少年野球チームが、遊歩道沿いに植樹しました。

将来、ホームランを打てるバットになるよう見守っていこうと、地元の「田総の里自治会」が総領少年野球スポーツ少年団にも呼びかけました。参加した35人は、約200本のアオダモの木の根元の雑草を刈り、「雑草に負けず、もっと成長するように」と2メートル四方の防草シートを張りました。

また、子どもたちに自然を大切にしてほしいと、田総の里自治会が手作りした竹製の釘をシートが飛ばないように打ち付けていきました。

大富山城跡を散策
県民の森「自然観察会」

6月8日、ひろしま県民の森が主催する自然観察会「比婆山と西城史跡廻り」が行われ、地元西城や広島市などから参加した7人は、西城町の大富山（511.4m）に登り、西城川に沿って遊歩道を歩きました。

比婆科学教育振興会会長の金沢成三さんと県民の森総支配人の片倉端吾さんがガイドで、大富山城の遺構や自然の植生を説明。参加者は大きなシダやササユリ・シラカシに感激しながら、山頂の大ケヤキまで登りました。

散策ルートを確認する参加者

地元から参加した主田さんや青木さんは、「いつも見ている山ですが、離れて見ているだけでは、知らないことがたくさんあった」と1日を満喫していました。

ひろしま県民の森では、毎月自然観察教室を行っています。

Camera Report

カジカの鳴き声で俳句を詠む
西城小学校が俳句学習

6月21日、西城小学校の低学年（49人）が季語のカエル「カジカ」の鳴き声を聴き、俳句作りに挑戦しました。

昨年まで高学年で行っていた俳句教室を、今年から低学年でも取り組もうと今回が初めての試み。地元の俳句グループ「西城岬会」会長の伊藤白水さんが講師で、「自然の中から、自分の心に映ったものを、俳句に詠みましょう」などと、子どもたちを指導しました。

耳を澄まして俳句を詠む子どもたち

子どもたちは、西城川の護岸に腰をおろし、「カジカ」の鳴き声と川のせせらぎを聞きながら、俳句を詠みました。「水の音　まざりあいたる　かじかぶえ」や「初かじか　きれいな鳴き声　コンサート」などと子どもたちが発表すると、指導した伊藤さんも「子どもたちの感性の鋭さには、びっくりした」と喜んでいました。

建築職人が保育所などを修繕
「住宅デー」で奉仕活動

庄原保育所で下駄箱を補修

建築に携わる方々で構成する広島県建築センター協会庄原支部が6月24日、「住宅デー」の一環として庄原小学校と庄原保育所で修繕ボランティアを行いました。

これは、建築職人が自分たちの仕事や技能を理解してもらおうと、毎年6月25日を「住宅デー」とし、地域で奉仕活動をしています。庄原保育所では、壁のペンキ塗りや下駄箱の補修が行われました。

また、6月24日～29日にかけて、東城・西城・高野支部でも同様に、保育所や独居老人宅で修繕ボランティアが行われました。

親子で楽しく、スキンシップ
「水夢」でベビースイミング

6月27日から5回にわたり、西城温水プール水夢で、生後4か月から3歳までの子どもとその親を対象に、「ベビースイミング」が行われています。

第1回の6月27日は、5か月から2歳までの子どもとその親、7組14人が参加。子どもたちは、お父さんやお母さんに高い高いをしてもらって水に入り、足をバシャバシャさせたりしながら、25mのプールを往復しました。はじめは、ぐずって「怖い」と泣いていた子どもも、だんだん慣れて、最後まで指導を受けました。

「ベビースイミング」は、おなかの中にいる感覚で、親子のスキンシップで情を通わせ、陸上ではできない水圧によるマッサージ効果などがあるといわれています。参加者は、「楽しいスキンシップができて良かった」などと話していました。

高い・高いに大喜び

半夏（はんげ）のちまきづくりを学ぶ
越原（おっぱら）の伝統行事で交流会

ちまきづくりを楽しむ参加者

7月1日、ふれあいの里越原で「半夏のちまきづくり体験」が開催され、尾道市などから約20人が参加しました。

半夏のちまきづくりは、比和町越原で一年のちょうど半分の日にあたる半夏の日に、ちまきや団子を作って神仏に供える伝統的な行事。これを多くの人に体験してもらい、次世代に継承していこうと交流会が企画されました。

交流会では、地元で生産したもち米や地域に自生しているクマザサを使い、地元住民が指導しながらちまきづくりを行いました。出来たちまきを早速調理し、参加者は山菜料理などとともに、地元ならではの味を楽しんでいました。

参加者は「越原の皆さんは、いつも温かく迎えてくれて、ふるさとに帰ってきたような気持ちになる。貴重な伝統行事に触れることもでき、次回の行事にも、また参加したい」と話していました。

特技を生かし演奏会
親子リズムの会が「七夕コンサート」

各楽器の音色を聴き比べる

子育て支援施設「ひだまり広場」で知り合った母親たちが7月2日、七塚保育所で「七夕コンサート」を開催し、七塚保育所の園児のほか、地域の親子約40人が参加しました。

ピアノ、クラリネット、フルートが奏でる美しい音色に、子どもたちは目をまるくしながら「七夕さま」「となりのトトロ」など、知っている曲に合わせて口ずさんだり、リズムをとったりして楽しんでいました。また、他の子育てサークルも協力し、ブラックライトを使ったパネルシアターなどでコンサートを盛り上げました。

出演した母親たちは、お互いに子どもを見合いながら企画・練習をこなし、「気持ちよく演奏でき、皆さんに聞いてもらって楽しかった」と充実した表情。

「ひだまり広場」に勤務する石原春美さんは、「子育て家庭の皆さんをつなぎ、それぞれの特技や趣味を活かした社会参画の応援をしていきたい」と話していました。

お家の人と花を植えよう
下高保育所祖父母・保護者参観日

6月27日、高野の下高保育所（園児38人）が、「お家の人と花を植えよう」をテーマに祖父母（保護者）参観日を行いました。

園児の祖父母・保護者35人が参加。おじいちゃん・おばあちゃんのひざにすっぽり抱かれて至福の表情の園児たちは、一緒にペットボトルで鉢作りをし、思い思いの花を植えました。

園庭は100個余りのプランターで花いっぱいになり、園児たちは「一緒に植えた花を見に、保育所に来てね」とおじいちゃん・おばあちゃんに呼びかけていました。

プランターへ花を植える

Camera Report

有事に備え放水訓練
比和方面隊が夏期教養訓練

ドラム缶めがけて放水

6月24日、比和スポーツ広場などを会場として、庄原市消防団比和方面隊の夏期教養訓練が行われ、関係者を含む約100人が参加しました。

庄原市消防団の夏期教養訓練は、消防団員の技術向上や防災意識を高めることを目的に、6月下旬から9月上旬にかけて方面隊ごとに行われています。

2人1組で放水

この日は、号令により団体行動を行う訓練「集合整理整頓要領」の後、分団ごとに分かれ放水技術を競う「放水訓練」を実施。この放水訓練は「とっくり出し」とも呼ばれ、ドラム缶めがけて放水しドラム缶の中にある3リットル缶をいかに早く放出するかを競い合いました。団員は、高い位置から放水したり、消防ホースを2つに分岐させたりと、さまざまなやり方で熱心に取り組んでいました。

岡原方面隊長は、「こうした地道な取り組みが有事の際、大きな力となる。今後もさまざまな訓練を通じ消防団員の技術向上に努め、地域の皆さんの期待に応えていきたい」と話していました。

ココロもカラダも美しく
口和でヨガ・ピラティス講座

慣れないポーズに悪戦苦闘！？

ヨガ・ピラティス講座が、口和文化ホールで6月12日から始まりました。

ヨガやピラティスは最近流行のエクササイズで、性別や年齢を問わずに人気があり、昨年に引き続き今年も約40人が参加しています。

初日は、講師の山玉一恵さんがポーズのときの呼吸方法や体の姿勢について指導。参加者は、ポーズの難しさや体の硬さと痛みなどに悪戦苦闘しながらも、次々と難しいポーズに挑戦していました。また、会場は楽しい会話が弾み、笑顔があふれるなか、心地よい音楽にあわせて気持ちの良い汗を流していました。

この講座は3月まで計20回開催されます。

ドライバーへ安全運転を呼びかける
夏の交通安全パラソル村

ドライバーへ交通安全啓発品を配布

7月11日、「夏の広島県交通安全運動」に伴い、庄原地区交通安全協会中央分会と山内東分会が、上原町パトカーの駅広場で、「夏の交通安全パラソル村」を開催し、7団体、約60人が参加しました。

参加者はドライバーへ交通安全啓発品を配布し、「安全運転でお願いします」「交通事故に気をつけましょう」などと声をかけ、交通安全意識の高揚を図りました。